

先月までの為替相場のレビューと、
今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2011/12/01

不安定な欧州情勢と不安定なユーロ

通貨ペア	基調		ページ数
ユーロ/円	➡	ECB金融政策に注目 予想レンジ: 101.50 ~ 108.00円	2-3
ユーロ/ドル	➡	不安定ながら買い戻し強まる可能性も 予想レンジ: 1.3100 ~ 1.3850 ドル	4-5
ポンド/円	➡	内部要因から目をそらした状態続く? 予想レンジ: 116.70 ~ 128.00 円	6-7
ポンド/ドル	➡	ユーロ/ドルに従う展開 予想レンジ: 1.5000 ~ 1.6300 ドル	8-9

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

EUR/JPY

ユーロ/円 11月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	108.30円	109.22円	102.50円	104.25円



①	1日、前日の大規模介入の余韻が残る中、ドル/円が一時急騰した事につれてユーロ/円も109.22円の高値まで上昇した。しかし、前日終盤にギリシャのパパンドレウ首相が、国際支援受け入れの是非を問う国民投票を実施する方針を示した事を嫌気して、アジア株や欧州株が下落。ユンケル・ユーログループ議長が「新たな支援融資計画が国民投票で否決されれば、ギリシャの破たんを排除できない」と発言した事が伝わると、ユーロ/円は106.49円まで下落した。
②	3日、欧州中銀(ECB)が大方の予想を裏切って0.25%の利下げを発表すると、ユーロ売りが優勢となった。さらに、ドラギ新ECB総裁が「成長見通しの著しい引き下げもあり得る」「経済の下振れリスクが増大している」などと述べると、ユーロ/円は106.58円まで下落した。ただ、その後は危機対応としてのECBの利下げを好感する形でNYダウ平均株価が上昇し一時200ドルを超える値上がりとなると、ユーロ/円は108.04円まで反発した。
③	9日、欧州清算機関のLCHクリアネットがイタリア国債取引の証拠金比率引き上げを発表した事をきっかけにユーロ売りが優勢となった。さらにその後、伊10年債利回りが自力資金調達「危険水域」とされる7%を上回る水準に上昇するとユーロ売りが加速。欧州債務危機の深刻化を受けてNYダウ平均株価が430ドル安の大幅下落となると、ユーロ/円は105.25円まで下落した。
④	14日、12日に伊下院議会が財政安定法案を可決し、13日にはベルルスコーニ伊首相の辞任とモンティ元欧州委員の新首相指名が発表された事を好感してユーロ/円は前週末の終値を大きく上回って取引が始まった。しかし、しっかりで始まった欧州株が下げに転じるとユーロは売り優勢となり、さらに伊大手銀行ユニクレジットの第3四半期決算が予想に反して赤字となった事や、メルケル独首相が率いるキリスト教民主同盟(CDU)が、ユーロ加盟国の自発的な統一通貨圏離脱を認める動議を採択したと伝えられた事を受けてユーロ売りが加速するとユーロ/円は104.75円まで下落した。
⑤	23日、ベルギーと仏の両政府が先に合意したデクシア救済コストの分担について新たな協議を行っているとの報道をきっかけにユーロ売りが優勢となった。その後、独10年国債入札で、募集予定額に対して応札額が下回る「札割れ」となった事を受けて債務危機の影響が独にも及び始めたとの見方からユーロ売りが加速。NYダウ平均株価が200ドル超下落すると、ユーロ/円は103.06円まで下落した。
⑥	28日、前週末に、伊紙が「イタリアの債務危機が悪化した場合に備え国際通貨基金(IMF)が中心となって最大6000億ユーロの支援が準備されている」と報じた事を好感して取引開始からユーロが上昇。その後、欧州情勢好転への期待感や米国年末商戦の好スタートを背景に、NYダウ平均株価が寄り付きから大幅高となり一時300ドルを超える上昇となると、ユーロ/円は104.51円まで上昇した。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

EUR/JPY

今月のポイント

11月のユーロ/円相場は102.50円～109.22円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約3.7%の下落（ユーロ安・円高）となった。10月31日にギリシャのパパンドレウ首相が、国際支援受け入れの是非について国民投票を行う考えを表明した事を受けて11月のユーロ/円は大幅下落で始まった。その後は、ギリシャ国債を大量に保有するフランスやイタリアの銀行の資産劣化懸念から、欧州金融システム不安に発展。特に、政局の不透明感を背景に財政改革の遅れが懸念されるイタリアでは、国債利回りが自力資金調達「危険水域」とされる7%台に上昇するなど市場の圧力を受ける事になり、その結果政権が交代した。しかし、それでも市場の不安は収まらず、その後は中核国である独の国債入札に応札が集まらず「札割れ」となるなど、投資家の欧州離れも意識された。こうした流れの中で、ユーロ/円は軟調地合いが続き25日には102.50円まで下落したが、その後は、国際通貨基金(IMF)がイタリア支援に乗り出すとの期待感や日米欧の中央銀行が欧州銀行のドル調達支援策として、ドル資金供給オペ金利の引き下げを発表した事などを背景に104円台に反発して11月を終えた。12月の最大の注目は8日の欧州中銀(ECB)理事会であろう。欧州金融システムへの信頼が揺らぐ中、各国が協調の下ドル資金供給オペの金利引き下げるなど対応策を取っており、ECBとしては従来のインフレ抑制最優先の姿勢を封印してでも追加緩和を避けられない見通しだ。もっとも、金融緩和がユーロ安につながるかどうかは不透明で、11月のように危機対応策としての金融緩和との見方が強まれば、ユーロ買い材料となる事も考えられる。債務危機の解決には長い時間がかかると見られる事や、ユーロ圏景気の減速を考慮すると中期的にはユーロ買い材料には乏しいものの、12月はこれまでのポジションが巻き戻されやすい時期でもあり、108円程度までの反発があっても不思議ではないだろう。(神田)

(予想レンジ:101.50～108.00円)

今月の注目材料

日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
12/1(木)	11月米ISM製造業景況指数	12/13(火)	12月独ZEW景況感調査
12/2(金)	11月米雇用統計		米FOMC政策金利発表
12/5(月)	10月ユーロ圏小売売上高	12/14(水)	10月ユーロ圏鉱工業生産・季調済
	11月米ISM非製造業景況指数	12/15(木)	日銀短観
12/6(火)	第3四半期ユーロ圏GDP・改定値	12/20(火)	12月独IFO景況指数
12/7(水)	10月独鉱工業生産	12/21(水)	日銀金融政策決定会合
12/8(木)	欧州中銀金融政策発表	12/23-28	12月ユーロ圏PMIサービス業・速報
	ユーロ圏首脳会議		12月ユーロ圏PMI製造業・速報
12/9(金)	11月中国消費者物価指数	12/29(木)	12月独消費者物価指数・速報
	EU首脳会議		

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

EUR/USD

ユーロドル 11月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	1.3858ドル	1.3870ドル	1.3212ドル	1.3442ドル



①	1日、前日終盤にギリシャのパパンドレウ首相が、国際支援受け入れの是非を問う国民投票を実施する方針を示した事を嫌気して、アジア株や欧州株が下落。ユンケル・ユーログループ議長が「新たな支援融資計画が国民投票で否決されれば、ギリシャの破たんを排除できない」と発言した事が伝わると、ユーロ/ドルは1.3608ドルまで下落した。
②	3日、欧州中銀(ECB)が大方の予想を裏切って0.25%の利下げを発表すると、ユーロ売りが優勢となった。さらに、ドラギ新ECB総裁が「成長見通しの著しい引き下げもあり得る」「経済の下振れリスクが増大している」などと述べるとユーロ売りが加速。ただ、その後は、危機対応としてのECBの利下げを好感する形でNYダウ平均株価が上昇し一時200ドルを超える値上がりとなると、ユーロ/ドルは1.3854ドルまで大幅に反発した。
③	9日、欧州清算機関のLCHクリアネットがイタリア国債取引の証拠金比率引き上げを発表した事をきっかけにユーロ売りが優勢となった。さらにその後、伊10年債利回りが自力資金調達「危険水域」とされる7%を上回る水準に上昇するとユーロ売りが加速。欧州債務危機の深刻化を受けてNYダウ平均株価が430ドル安の大幅下落となると、ユーロ/ドルは1.3522ドルまで下落した。
④	14日、12日に伊下院議会が財政安定法案を可決し13日にはベルルスコーニ伊首相の辞任とモンティ元欧州委員の新首相指名が発表された事を好感してユーロ/ドルは前週末の終値を50ポイント強上回る水準で取引が始まった。しかし、しっかりと始まった欧州株が下げに転じるとユーロは売り優勢となり、さらに伊大手銀行ユニクレディの第3四半期決算が予想に反して赤字となった事や、メルケル独首相が率いるキリスト教民主同盟(CDU)が、ユーロ加盟国の自発的な統一通貨圏離脱を認める動議を採択したと伝えられた事を受けてユーロ売りが加速。ユーロ/ドルは1.3591ドルまで下落した。
⑤	23日、ベルギーとフランスの両政府が先に合意したデクシア救済に関するコストの分担について新たな協議を行っているとの報道をきっかけにユーロ売りが優勢となった。その後、独10年国債入札で、募集予定額に対して応札額が下回る「札割れ」となった事を受けて、債務危機の影響が中核国である独にも及び始めたとの見方からユーロ売りが加速。これらを嫌気してNYダウ平均株価が200ドル超下落すると、ユーロ/ドルは1.3320ドルまで値を下げた。
⑥	30日、中国が預金準備率を0.50%引き下げると発表した事を受けて欧州株がプラス圏に持ち直すとユーロが上昇。さらにその後、日米欧の各中銀が欧州金融機関のドル調達支援のためにスワップ協定に基づくドル資金供給オペの期限を延長し、金利を0.50%引き下げると発表すると、急速にドル売りが強まった。欧米株が大幅に上昇した事もあって、ユーロ/ドルは1.3533ドルまで値を上げた。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

EUR/USD

今月のポイント

11月のユーロ/ドル相場は1.3212ドル～1.3870ドルのレンジで推移し、月間の終値ベースでは約2.9%の下落(ユーロ安・ドル高)となった。

11月に入ると、債務危機は域内第3位の経済規模を持ちながら政局の混迷により財政改革の遅れが懸念されるイタリアに波及した。9日にはイタリアの10年債利回りが自力での資金調達を断念せざるを得ない「危険水域」とされる7%に上昇。求心力が低下したベルルスコーニ首相の辞任と経済通のモンティ元欧州委員の新首相就任が好感されてユーロが買い戻される場面もあったが、23日にはユーロ圏のリーダーであるドイツの国債入札が「札割れ」となるなど、欧州金融機関の資産圧縮の動きや国際投資家の欧州離れの動きなどから高債務国の国債利回りの高止まりは続き、ユーロも軟調推移が続いた。しかし、月末が近づくとつれて、国際通貨基金(IMF)がイタリア支援に乗り出すとの期待感や、日米欧各中銀が協調してドル資金供給オペの金利引き下げを決めた事などから反発。ユーロ/ドルは1.3442ドルで11月の取引を終えた。12月には、上旬にも欧州金融機関の資本不足額が発表される予定であり、8日の欧州中銀(ECB)理事会では利下げとともに経済見通しの大幅下方修正が見込まれている。ユーロは欧州情勢を睨んで、なお不安定な値動きが続きそうだ。ただ、投機筋のユーロ売りポジションが積み上がっている事や、米国でも追加緩和観測がくすぶっているうえに、財政削減策の行方次第では格下げ懸念が再燃しかねないため、ユーロ買い・ドル売りが優勢となる可能性もありそうだ。(神田)

(予想レンジ:1.3100～1.3850ドル)

今月の注目材料

日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
12/1(木)	11月米ISM製造業景況指数	12/13(火)	米FOMC政策金利発表
12/2(金)	10月ユーロ圏生産者物価指数	12/14(水)	11月ユーロ圏消費者物価指数
	11月米雇用統計	12/15(木)	スイス中銀政策金利発表
12/5(月)	11月米ISM非製造業景況指数		11月米鋳工業生産
	10月ユーロ圏小売売上高	12/16(金)	11月米消費者物価指数
12/6(火)	第3四半期ユーロ圏GDP・改定値	12/20(火)	12月独IFO景況指数
12/7(水)	10月独鋳工業生産		11月米住宅着工件数
12/8(木)	欧州中銀金融政策発表	12/21(水)	12月ユーロ圏消費者信頼感・速報
	ユーロ圏首脳会議	12/22(木)	第3四半期米GDP・確報値
12/9(金)	11月中国消費者物価指数	12/23-28	12月ユーロ圏PMIサービス業・速報
	EU首脳会議		12月ユーロ圏PMI製造業・速報
12/13(火)	12月独ZEW景況感調査	12/29(木)	12月独消費者物価指数・速報
	11月米小売売上高		

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

GBP/JPY

ポンド/円 11月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	125.71円	126.77円	119.36円	121.65円



①	1日、朝に円売り介入期待からまとまった規模の注文が入りドル/円が急騰すると、ポンド/円も126.77円の高値をつけた。しかしすぐに上げ幅縮小。さらに、ギリシャが第2次支援を巡って国民投票が実施される見通しである点が嫌気されてユーロ/円が大きく下げるとポンドも連れ安となった。なお、発表された英第3四半期国内総生産(GDP)・速報値は前年比+0.5%と予想(+0.4%)を上回ったものの、英10月製造業PMIが47.4と予想(50.0)を下回り、景況感の悪化がはっきり示されたこともポンドの売り要因となった。
②	10日、イングランド銀行(BOE)が金融政策据え置きを発表すると、一部の追加緩和を期待していた向きがポンドの買い戻しに回り、ポンド/円は小幅に上昇した。
③	14日、欧米株の大幅安を背景にポンド/円は大きく値を下げた。
④	15日、英10月消費者物価指数が前年比+5.0%と予想(+5.1%)を下回ったことがポンド売りの材料となった他、オーストリアの格下げの噂やイタリアの国債利回り上昇などを背景に欧米株が下落したことを受け、ポンド/円は下げた。
⑤	16日、アジア株が軟調だったことを受け、ポンド/円は下落。英10月雇用統計では失業率が5.0%(予想:5.1%)、失業保険申請件数が0.53万件増(同:2.10万件増)と予想よりも良好な結果になると下げ幅を縮める場面も見られたが、値幅は限定的。また、その後にBOEが四半期インフレ報告で「消費者物価指数の上昇率は2年以内に2%以下になる可能性が高い」「英国の経済成長見通しは悪化」等と発表した、ほとんど反応は見られなかった。
⑥	21日、格付け会社ムーディーズがフランスの格付けについてネガティブな考えを示したことや米財政赤字削減策を巡る協議が難航していることを受けて主要国株価が下落すると、ポンド/円も値を下げた。
⑦	23日、夕方にまとまった規模のポンド売りが持ち込まれポンドは下落。ただ、その後にBOEの金融政策委員会(MPC)議事録が発表され、金融政策の据え置き決定が全会一致だったことや、一部の委員が追加緩和が必要になる可能性を指摘したことが明らかになったが、さらに緩和的な内容を期待していた向きによる反動のポンド買いが入り、ポンド/円は値を戻した。
⑧	28日、29日のユーロ圏財務相会合で欧州金融安定ファシリティ(EFSF)の拡充案が承認されるとの期待感から欧州株が全面高になるとポンド/円も上昇した。
⑨	30日、日本の10月28日から11月28日の介入額が9兆916億円だったことから10月31日以降も覆面介入があったとの見方が広がり、円安が進行。その後に主要国中銀がドルスワップ協定におけるドル資金供給の際の金利引き下げに合意したことが発表されると、欧米株が上昇し、ポンド/円も値を伸ばした。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

GBP / JPY

今月のポイント

11月のポンド/円相場は119.36～126.77円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約3.2%の下落(ポンド安・円高)となった。

11月のポンド/円相場はほとんどユーロ/円に連れる展開だった。独自の材料がなかったわけではないが、金融市場全体が兎にも角にも欧州債務問題に注目し、その他の材料はほとんど無視してしまうような動きとなった。

執筆時点で、欧州債務問題に対する市場の関心は沈静化する様子を見せていない。11月29日のユーロ圏財務相会合で欧州金融安定ファシリティ(EFSF)の拡充案が合意に至ったものの、具体的な内容を詰めるにはまだ時間が掛かりそうな上、EFSFの拡充がそのまま欧州債務問題の解決を意味しないことが大きい。30日に主要国中銀が金融市場のドル不足を補うためにドルスワップ協定におけるドル資金供給の金利を0.50%引き下げ、かつ同資金供給のオペを2013年2月1日まで延長するとの措置発表する等、金融危機を防ぐための対策は取られつつあるが、問題に対する懸念は根強く、12月もユーロ/円は欧州債務問題に関する報道や問題国の国債利回りに右往左往する動きが続くと考えられる。つまりポンド/円も同様に神経質な展開になりそうだ。英国の独自材料としては引き続き英要人らの発言や各経済指標結果から、追加の量的緩和の可能性や時期を探っていく流れになるだろう。ただ、前述の通り、基本はユーロに連れる公算のため、英国の独自材料に対するポンドの反応はかなり限定されよう。この他、季節要因にも注意したい。月中盤から後半にかけてはクリスマスや年末を前に、手控えムードが広がりやすくなる見通しだ。従って市場参加者が減少していくわけだが、その分、まとまった規模のポジション整理の動きが出れば急激かつ大幅に値が動くこともあり得る。この点にも留意しておきたい。(ジェルベズ)

(予想レンジ: 116.70～128.00円)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
12/1(木)	11月英PMI製造業		12月ミシガン大消費者信頼感指数・速報値
	11月米ISM製造業景況指数		EU首脳会議
12/2(金)	11月英PMI建設業	12/13(火)	11月英消費者物価指数
	11月米雇用統計	12/14(水)	11月英雇用統計
12/5(月)	11月英PMIサービス業	12/15(木)	日銀短観
	11月米ISM非製造業景況指数		11月英小売売上高指数
12/7(水)	10月英鉱工業生産	12/16(金)	11月米消費者物価指数
12/8(木)	BOE政策金利発表	12/21(水)	日銀金融政策決定会合(20日～)
	ECB金融政策発表		BOE議事録
	ユーロ圏首脳会議	12/22(木)	第3四半期英GDP・確報値
12/9(金)	第3四半期日GDP・二次速報		第3四半期英経常収支
	11月英生産者物価指数	12/27(火)	日銀金融政策決定会合議事要旨(11月分)
	10月英商品貿易収支	12/29(木)	12月米シカゴ購買部協会景気指数

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

GBP/USD

ポンド/ドル 11月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	1.6085ドル	1.6128ドル	1.5421ドル	1.5693ドル



①	1日、ギリシャのパパンドレウ首相が第2次支援を巡って国民投票を実施する予定と発言したことが嫌気されてユーロ/ドルが大きく下げるとポンド/ドルも連れ安。また、英第3四半期国内総生産(GDP)・速報値は予想前年比+0.5%と予想(+0.4%)を上回ったものの、英10月製造業PMIが47.4と予想(50.0)を下回り、景況感の悪化がはっきり示されたこともポンドの売り要因となった。
②	10日、イングランド銀行(BOE)が金融政策据え置きを発表すると、一部の追加緩和を期待していた向きがポンドの買い戻しに回り、ポンド/ドルは小幅に上昇した。
③	14日、欧米株の大幅安を背景にポンド/ドルは大きく値を下げた。
④	15日、英10月消費者物価指数が前年比+5.0%と予想(+5.1%)を下回ったことがポンド売りの材料となった他、オーストリアの格下げの噂やイタリアの国債利回り上昇などを背景に欧米株が下落したことを受け、ポンド/ドルは下落した。
⑤	16日、アジア株が軟調だったことを受け、ポンド/ドルは下落。英10月雇用統計では失業率が5.0%(予想:5.1%)、失業保険申請件数が0.53万件増(同:2.10万件増)と予想よりも良好な結果になると下げ幅を縮める場面も見られたが、値幅は限定的。また、その後BOEが四半期インフレ報告で「消費者物価指数の上昇率は2年以内に2%以下になる可能性が高い」「英国の経済成長見通しは悪化」等と発表されたが、ほとんど反応は見られなかった。
⑥	21日、格付け会社ムーディーズがフランスの格付けについてネガティブな考えを示したことや米財政赤字削減策を巡る協議の難航ぶりを受けて主要国株価が下落すると、ポンド/ドルも値を下げた。
⑦	23日、夕方にまとまった規模のポンド売りが持ち込まれポンドは下落。ただ、その後BOEの金融政策委員会(MPC)議事録が発表され、金融政策の据え置き決定が全会一致だったことや、一部の委員が追加緩和が必要になる可能性を指摘したことが明らかになったが、さらに緩和的な内容を期待していた向きによる反動のポンド買いが入り、ポンド/ドルは値を戻した。
⑧	28日、29日のユーロ圏財務相会合で欧州金融安定ファシリティ(EFSF)の拡充案が承認されるとの期待感から欧州株が全面高になるとポンド/ドルも上昇した。
⑨	30日、主要国中銀がドルスワップ協定におけるドル資金供給の際の金利引き下げに合意したことを受け、ドルが急落。さらに、米11月ADP全国雇用者数が20.6万人増と市場予想(13.0万人増)を大幅に上回ったこと等を受けて欧米株が軒並み大きく上昇すると、ポンド/ドルは上値を伸ばした。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

GBP / USD

今月のポイント

11月のポンド/ドル相場は1.5421～1.6128ドルのレンジで推移し、月間の終値ベースでは約2.4%の下落（ポンド安・ドル高）となった。11月のポンド/ドルはほぼユーロ/ドルに連動して動いていた。独自の材料がなかったわけではないが、為替市場全体が兎にも角にも欧州債務問題に注目し、その他の材料はほとんど無視してしまうような動きとなった。

当面、欧州債務問題については懸念が強い状態に変わりはないだろう。11月29日のユーロ圏財務相会合で欧州金融安定ファンリティ(EFSF)の拡充案が合意に至ったものの、具体的な内容を詰めるにはまだ時間が掛かりそうだ。この件が進捗を見せればもちろんユーロ/ドル上昇→ポンド/ドル連れ高という動きになると考えられるが、EFSFの拡充がそのまま欧州債務問題の解決を意味しない以上、ユーロは欧州債務問題に関する報道に右往左往する動きが続くと見る。従ってポンド/ドルも同様に神経質な展開が予想される。また、月中盤から後半にかけてはクリスマスや年末を前に手控えムードが広がりやすくなる見通しだ。ただ、その一方で市場参加者が減少する中でまとまった規模のポジション整理の動きが出れば、急激かつ大幅に値が動くこともあるだろう。リスク管理には注意したい。

なお、英国の独自材料については、英金融政策委員会(MPC)メンバーによる発言やMPC議事録などから追加の金融緩和の可能性や時期についての示唆があるかどうか注目される。しかし、欧州債務問題についての関心がよほど薄らがない限り、引き続き反応が鈍い状態が続くと考えられる。(ジェルベズ)

(予想レンジ: 1.5000～1.6300ドル)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
12/1(木)	11月英PMI製造業		11月米小売売上高
	11月米ISM製造業景況指数		米FOMC政策金利発表
12/2(金)	11月英PMI建設業	12/14(水)	10月英雇用統計
	11月米雇用統計	12/15(木)	11月英小売売上高指数
12/5(月)	11月英PMIサービス業		11月米鋳工業生産
	11月米ISM非製造業景況指数	12/16(金)	12月米フィラデルフィア連銀景況指数
	10月英鋳工業生産		11月米消費者物価指数
12/8(木)	BOE政策金利発表	12/21(水)	BOE議事録
12/9(金)	11月英生産者物価指数	12/22(木)	第3四半期英GDP・確報値
	10月英商品貿易収支		第3四半期英経常収支
	12月ミシガン大消費者信頼感指数・速報値		第3四半期米GDP・確報値
	EU首脳会議	12/27(火)	12月米消費者信頼感指数
12/13(火)	11月英消費者物価指数	12/28(水)	12月米シカゴ購買部協会景気指数

巻頭の特記事項を必ずお読みください。